

[第2回] 学校運営協議会

と き／平成29年10月24日（火）19:00～22:00

ところ／南が丘小学校図書室

■平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果および分析の報告

小学校の担当者から、6年生を対象として4月18日（火）に実施された見出しの調査について報告がありました。概要は、次のとおりです。

- 昨年度に引き続き、全ての教科において全国平均の正答率を上回っている。しかし、無解答率が高くなり、児童質問紙においても解答時間が「やや足りない・足りない」と回答した児童が、国語B・算数ともに60%近かった。
- 国語ABともに「書くこと」領域の正答率が全国平均を上回っている。これは、本校の課題として「書くこと」領域を重点的に取り組んでいる成果であると考えられる。
「記述式」で解答する問題の正答率は、昨年度まで伸びてきていたが、今年度は全国正答率よりも高いものの、正答率は下がった。
- 算数では、領域別に見ると「図形」領域、「数量関係」領域の正答率が低くなっている。「数量関係」領域の中では、特に割合に関する問題に課題があった。
また、記述問題は全国平均を上回っているものの、いくつか課題がみられた。

上の結果を受けて、今後次のような取り組みを進めていくことが説明されました。

〈国語〉

各学年の年間指導計画にしたがって、さらに「書くこと」の指導を充実させる。目的に応じて、様々な種類の文章が書けるように、教科書の文章やモデル文を提示するなどの手立てをとっていく。

各教科においても国語科との関連を図りながら、手紙を書くなどの書く学習活動を計画的に設定し、実生活の中で使えるようにしていく。

〈算数〉

昨年度と同様に、図形領域、数量関係（特に割合）に課題がみられたため、本校児童の弱みにつながる学習単元を丁寧に指導し、6年間を系統立てて、具体的な思考から抽象的な思考を育てるようにしていく。

B問題では記述に課題がある。言葉や式を用いて、自分の考えを友だちに説明したり、ノートに表したりする活動を繰り返し行っていく。また、ラーニングスキル表を活用し、内容理解とともに、説明のための用語、手順などをしっかりと身につけさせていく。

〈全教科を通して〉

今後も「めあて」と「振り返り」を意識した授業を行うとともに、「まとめ」「振り返り」まで見通した授業の展開をしていくようにする。

振り返りなどを活用し、「授業がわからない」児童を把握し、「わからない」といえる雰囲気、「わからないから教えて」という、主体的な学びの姿勢をつくっていくようにする。

児童質問紙の結果（一部紹介）

肯定的回答が高かった項目や本校児童の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数への関心度が高い。 ・よい生活習慣が定着している。 「朝食を食べている」 98.0% ・「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」 100% ・友達を大切にしている児童がとても多い。 「いじめは、どんなことがあってもいけないと強く思っている」 100% ・話し合い活動の基盤ができています。
肯定的回答が少なかった項目	<ul style="list-style-type: none"> ・「学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている」 49.5%（前年度 50.3%） ・「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」 68.7%（前年度 59.5%） ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれている」 76.7%（前年度 85.1%）
肯定的な回答率が増えるなど昨年度より改善された項目	<ul style="list-style-type: none"> ・「5年生までに受けた授業の中で、めあて・ねらいが示されていたか」 93.9%（前年度 88.2%） ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思うか」 79.8%（前年度 64.9%）

■協議内容

（1）上半期の取り組み状況について

本校では、学校教育目標の実現をめざして、特に重点を置く課題を8点設け、取組を進めています。この会議では、小学校の各担当者から上半期の取り組み状況の説明があり、委員で協議しました。出された主な意見は、次のとおりです。



○地域とともにある学校

中間報告会の出席者数が少なかったため、次年度は開催日を変更したり、内容、保護者への通知の方法を工夫したりしていく必要がある。

○小中一貫教育

小中一貫教育の状況報告を委員に対して随時行ってほしい。また、小中合同講演会については、開催日が平日では出席が難しい方が多いため、日程を考えて設定するとよい。

○英語教育

英語の学習に関して、今までの学校の取り組みの蓄積のみならず、今後新たな取り組みも考えていって欲しい。また、国際理解委員会の活動を継続していき、さらに子どもたちの考えを広げ、深めていけるような指導を求める。

○特別支援教育

スクールカウンセラーによる教育相談の実施状況について確認があった。自ら進んで相談に来ることができる姿を尊重しながら、今後も継続していってほしい。



○生徒指導

あいさつやそうじの仕方などは、学校だけでなく、まずは家庭における指導が基礎となる。家庭教育について実態把握をし、児童の規範意識が高まっていくよう、PTAとも連携して取り組みを行っていかなければならない。

○健康安全教育

PTAで、災害時に誰もが使用できるように防災備品のセットを設置している。学校、地域ともに周知をして、積極的に活用をしていってほしい。

また、食育の充実に関して、まずは給食調理員に手紙を書いて感謝の言葉を表すなど、できるところから食育につながる取り組みを行ってはどうか。



(2) 教職員の総労働時間の縮減について

学校運営協議会委員より、教員の業務過多の実情から、市教育委員会に対して主幹教諭設置等に向けて議事案件の提示があった。協議を踏まえ、学校運営協議会から要望をあげていくこととした。

児童、地域、教職員すべてが「素敵な学校だ」と思えるような学校づくりに向けて努めていき、地域の教育力の向上につなげていきたい。

